ＨＰ ＤＩＯ目次に戻る ＤＩＯバックナンバー

視点

男女共同参画と男性の家事参加の推進方策について

No200 2005年12月

職場における男女共同参画が曲がりなりにも進んでいる一方、家庭における男女共同参画は、まったくと言っていいほど進んでいない。長時間残業や性別分業モデルが根強く残っていることが主因であることは言うまでもないが、語弊を恐れず企業人にも分かりやすい表現を用いると、私はその一因は、職業面での男女共同参画に対応した家庭面における技術の普及・革新が進んでいないためではないかと疑っている。特に、男性において、家庭内サービス生産活動における基本的な知識・技術が欠如していることがボトルネックとなっていると考えている。

家事を効率よく行うためには、相当の技術・知識が必要である。暮らしのノウハウに関する情報番組が好評を博しているが、それは、暮らしの分野におけるソフト面での「イノベーション」が、如何に重要かを物語っている。かつては家電製品の登場など、外部からのハード面の新技術の導入による効率化が進んだが、最近の家電製品におけるイノベーションは品質の改善が中心で、生産性という観点からは目立った成果が上がっていない。これは、従前型のハードの設備投資だけで業務を効率化することに限界があると言い換えられよう。

家庭における男女共同参画を推進するためには、家庭内におけるサービス生産をどう効率化するか、労働条件をどう改善するか、人材育成・研修をどう進めるべきかという視

点が重要である。最大化すべき目標は、家族全員の幸福である。家庭内の活動で何がすごいかといえば、人の命まで出産しうるのである。人の生命の生産に成功した企業は、寡聞にして知らない、というよりあれば犯罪である。

繰り返しになるが、このような視点からみると、男性の家庭における知識・技術の不足が目立つのである。1993,4年頃までは、中学生以上の男子にとって、家庭科の授業を受ける機会は、事実上存在しなかった。現時点で30代以上の男性は、中等教育レベルの知識がないのである。それ以降の世代でも、決して普及しているわけではない。夫婦、パートナーで、家事にかかわる知識を共有し、家庭における男女共同参画と生産性の向上を図る必要がある。

最大の課題は、有配偶男性に、知識・技術の習得を目指す意欲がないことである。男女共同参画社会の実現のためには、男性の家事参加意欲の涵養に、真剣に取り組む必要がある。職場だけでなく、家庭の側にも性別分業モデルを変えるよう働きかける努力が求められる。

批判ばかりでは建設的でないので、比較的取り組みやすい家庭の外部からの改善策について提案したい。幸い、暮らしの技術の普及を助ける技術革新が、家庭外で発生し、既に家庭に入り込んでいる。インターネットである。様々な情報を入手することが飛躍的に容易になってきている。意欲の弱さを情報入手の容易さでカバーすることも、ある程度は可能であろう。例えば、家庭の技術に関し、インターネットを通じ、よりまとまった形で情報提供されるだけでも、男女共同参画に資すると考えられる。意欲の涵養にもつながろう。現在のところこのような情報はウェブ上では散在しており、入手は意外に困難である。家事に関するウェブ情報の充実については、労組や公的セクターが寄与する余地の大きい課題であると信じる。（黒妙橋）

ＤＩＯ目次に戻る ＤＩＯバックナンバー